



欧文会誌 ISIJ Internationalに論文投稿を

欧文会誌分科会 主査 佐野 正道(名古屋大学)
幹事 加藤 雅治(東京工業大学)

本会の欧文会誌である“ISIJ International”(以下、ISIJ誌と略記)は、“Transactions of the Iron and Steel Institute of Japan”の後を継いで、1989年(Vol. 29)に真の国際誌を目指してデビューし、着実な発展を遂げています。しかし、一方では、本誌はまだ“鉄と鋼”の英訳論文が主体であると誤解されている方も多いと聞きます。そこで、質問にお答えする形式で、本誌の現在の姿をご紹介しますとともに、積極的な論文投稿および本誌の購入をお願いしたく存じます。

Q. ISIJ誌には、“鉄と鋼”の英訳論文以外の論文も掲載されているのですか？

A. 結論から申しますと、ISIJ誌に掲載された記事のうち、“鉄と鋼”の英訳記事は、全体の1割程度にすぎず、残りの9割はオリジナル記事となっています。それでも、“鉄と鋼”に掲載されてから2年以内の論文や解説の英訳版の投稿を認めている理由は、我が国の鉄鋼およびその周辺分野の高い学術および技術レベルを広く海外に知らしめることが、ISIJ誌の大きな使命の一つと考えているからです。

Q. ISIJ誌の国際性について教えてください。

A. 現在では、海外にもISIJ誌の存在が広く知られており、世界60ヵ国以上に配布されています。また、1992年の統計では、外国人のみの著者によるオリジナル論文および解説の掲載記事の数は、全体の3割近く(28%)に及び、年々増加の傾向にあります。これは、我が国の他の学協会が発行している欧文誌に比べても誇るべき数字です(たとえば、専門分野が近いM誌では、14%)。特に、特集号へ投稿された我が国からの論文(75件)を除くと、海外からの投稿(98件、うち欧米39件、アジア44件、その他15件)の方が我が国からの投稿(61件)よりむしろ多くなっており、本誌の海外での高い評価を裏付けていると考えています。

しかし、ISIJ誌が“鉄と鋼”の英訳版であるという誤解のためか、我が国からの投稿数はこのところ横ばい状態です。“国際的情報発信基地”としてのISIJ誌の役割を考えると、優れた研究成果をまとめた我が国からのオリジナル論文の投稿を大きく増やしたいと考えております。

Q. ISIJへの投稿資格としてはどんなものがあるのですか？

A. 本会の会員・非会員を問わず、また、広く国内外からの投稿を歓迎しております。

Q. 投稿する際の注意事項を教えてください。

A. ISIJ誌に3ヶ月毎に投稿規程および執筆要領が掲載されます。また、最近、投稿規程の日本語版を作りました。これは“鉄と鋼”Vol.79(1993)、No.8に記載されております。

Q. 投稿してから掲載されるまで、どのくらいの期間がかかるのですか？

A. 論文の審査期間を含めて、平均して5～6ヵ月となっております。欧文会誌分科会では、この期間をさらに短くできるように、審査に時間のかかる場合は自動的に審査者を変更する制度を設けたり、義務付けてはおりませんが、フロッピーディスクによる最終原稿の提出をお願いしたりと、新しい試みを逐次導入しております。

Q. 英語は欧文会誌分科会で改善してくれるのですか？

A. 欧文会誌分科会では、英語の修正や改善は原則として行っておりません。英語を書くこと、また、それを他人に見せることがほとんど全ての日本人にとって大きな苦痛であることは確かです。しかし、英語が解読不能のような極端な場合を除いて、論文の内容さえ良ければ、少しぐらい幼稚な英語でもその論文の価値は変

わらないと確信しています。審査者によっては、丁寧に英語までチェックして下さる方もおられますが、そのような審査者にあたれば幸運であったとお考え下さい。接続詞や関係代名詞の多用を避け、文章を短く区切ることによって、英語はかなり読みやすくなります。ご自分の研究成果が広く海外にも紹介される絶好の機会なわけですから、むしろISIJ誌への投稿に積極的な挑戦をなさっていただきたいと希望します。そして可能な限り、投稿前に英語に堪能な方にチェックをお願いしていただきたいと思います。

Q. 技術的な論文も投稿できるのですか？

A. もちろんできます。投稿規程にあるように、「鉄鋼材料を中心に、その他各種材料の生産プロセス、性質、特性評価、応用に関する学術ならびに技術の発展に寄与するもの」なら、ご投稿を歓迎いたします。

Q. 審査者はどのようにして決めているのですか？

A. 欧文会誌分科会の中に各分野担当の幹事委員が複数おり、その幹事委員が論文内容を最も良く理解できると考える方(分科会委員とは限らない)を審査者を選んでおります。必要がある場合は、外国人に審査をお願いすることもあります。分科会委員自らも進んで論文を投稿しておりますが、委員といえども自分の論文の審査者は分からないシステムになっております。審査者の選定には慎重を期してはおりますが、万一審査にご異論があるときは、ご遠慮なく分科会にお知らせ下さい。分科会委員のモットーは「著者と読者のため」です。

Q. 解説記事を執筆したいのですが。

A. 解説(Review)記事の自薦を歓迎します。ただし、これは欧文会誌分科会からの依頼を原則としておりますので、執筆ご希望の方は、記事の著者、所属、題目、概要(内容が明確に分かるように書かれたもの)を前もって欧文会誌分科会にお知らせ下さい。分科会で審議致します。掲載されることになりましたら、本会規定の執筆料をお支払い致します。

Q. Advisory Boardの人達はどんな仕事をしているのですか？

A. 現在、海外の第一線の研究者および技術者の方々17名に1期4年の任期制でAdvisory Board memberになっていただいております。これらの方々には、論文や解説記事の執筆や推薦はもとより、論文審査や澤村論文賞候補論文の審査、また、それぞれの国での論文執筆の勧誘などの仕事をお願いしております。また近い将来、特集号の企画にも参加していただこうと考えています。これらの方々のご協力は、海外からの論文投稿の急速な増加や、ISIJ誌の国際誌としての認知に大きく貢献しております。

Q. ISIJ誌についての意見をのべたいのですが。

A. 欧文会誌分科会では、広く会員・非会員からの様々なご意見やご提案をいただきたいと考えております。分科会から著者や読者への一方通行では、ISIJ誌の発展のためには不十分と考えております。私共主査・幹事、身近な委員、または事務局(欧文会誌係)にご連絡下さい。